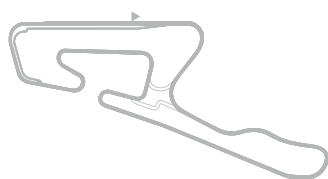


PORSCHE

**CARRERA
CUP
JAPAN**



Porsche Carrera Cup Japan 2014



Round **1-2** Report
Okayama International Circuit
5-6 April 2014

Mobil 1



 **APLUS**

 **GARMIN**

 **SUZUYO**

THE WESTIN
TOKYO

BOSE

 **HAZET**



NEOAXIS

 **adidas**



2-3	第1戦 & 第2戦 プレビュー
4	第1戦 & 第2戦 エントリー
5	岡山国際サーキット・コース図
6-7	公式予選レポート-4月5日(土曜日)
8	公式予選結果 & 第1戦 スターティング グリッド
9-10	ポルシェ カレラカップ ジャパン 第1戦 決勝レポート-4月5日(土曜日)
11	ポルシェ カレラカップ ジャパン 第1戦 決勝結果 & 第2戦 スターティング グリッド
12-13	ポルシェ カレラカップ ジャパン 第2戦 決勝レポート-4月6日(日曜日)
14	ポルシェ カレラカップ ジャパン 第2戦 決勝結果
15	2014年ドライバーズ & チーム チャンピオンシップ ポイント(第2戦終了時)
16-17	ポルシェ カレラカップ ジャパン 第1戦 & 第2戦 スナップショット





4月5日(土)-6日(日)に岡山国際サーキット(岡山県)で開幕を迎えるポルシェ カレラカップ ジャパン(PCCJ)の2014年シリーズ。今シーズン、最大の話はカップカーがType991に一新されたことだ。最大出力は10ps高められて460PSとなり、パドルシフトを初装着。タイヤの幅もフロントが10mm、リヤが20mm広げられ、さらに安全性やブレーキ性能も向上されたことから、各サーキットでのレコードラッシュの期待もかかっている。

今シーズンからクラス区分も改められ、“オーバーオール”すなわちすべてのドライバーを対象としたポイント争いによってシリーズチャンピオンを決定する方式を採用。そしてアマチュアドライバーがそのドライビング技術を競いクラストップを目指す“ジェントルマンクラス”は昨年同様に継続される。開幕レースには16名が出場し、そのうち10名がジェントルマンクラスからのエントリーとなる。

第1-2戦のダブルヘッダーは、3年連続でスーパーGT開幕戦のサポートレースとして組み込まれた。舞台となる岡山はテクニカルレイアウトで知られ、コース幅が狭いこともあってオーバーテイクポイントは多いとはいえない。そのため、予選でいかに前方グリッドを獲得するかが勝敗の重要なカギを握る。なお、その予選は今シーズンからシステムが変更された。ダブルヘッダーの第1レース時は予選のベストタイム順でスターティンググリッド



PORSCHE

**CARRERA
CUP
JAPAN**



Porsche Carrera Cup Japan 2014

第1戦 & 第2戦 プレビュー

ドが形成されるのはこれまで通りだが、第2レースは予選のセカンドタイム順で形成されることになった。したがって予選時は1周の速さだけでなく、さらにもう1周の速さが求められるようになり、より緊張感が増すことになる。

今シーズンのラインナップの特徴として、ディフェンディングチャンピオンの#12 小河諒を筆頭に、昨シーズンランキング2位の#78 近藤翼、3位の#19 永井宏明など、昨年の上位陣が揃って継続参戦していることが挙げられる。さらに2012年にランキング4位を獲得し、そのシーズンのチャンピオン平川亮を6戦中3回も破った#11 山野直也が2年ぶりに復帰。これに#32 飯田太陽、そしてPCCJスカラシッププログラムドライバー#14 元嶋佑弥を加えたバトルは、間違いなくヒートアップすることだろう。

一方、ジェントルマンクラスでは、#33 Tetsuo OGINO、#3 江本玄、#7 星野敏、#25 神取彦一郎といった、優勝経験を持つドライバーがタイトル争いの核を成すのは間違いない。やはり継続参戦となる、#21 高田匠や#24 剛覇矢人も、早く勝ち名乗りを挙げてウィナーズリストに名を連ねたいところだ。また、PCCJへのシリーズ参戦経験を持つ#9 武井真司、#18 大久保仁の復帰、そして実力が未知数の#51 Paul IP、#73 鈴木篤といったPCCJルーキー達が、前述のPCCJレギュラードライバー組に胸を借りつつ、どのような走りを見せるかは非常に興味深い。

3月4日(火)-5日(水)に富士スピードウェイで行なわれたオフィシャル合同テストでは、初日に#11 山野がトップタイムをマーク。雨に見舞われた2日目は#78 近藤が最速ラップを記録するなど、ベテラン勢、若手勢共に仕上がりの良さを見せた。また、驚くべくは、レコードタイムが約2秒短縮されたこと。これは単純に10PSのパワーアップ効果だけではなく、マシンのトータルバランス向上に起因していることは間違いなく、開幕ラウンドの岡山でも驚愕のタイムが叩き出されることを予感させる。

最速のワンメイクレースとして、絶えず激しいバトルが繰り広げられるPCCJで、16名のドライバーたちはシーズンの主導権を握るべく、緒戦からいきなり全力を尽くす。その様相は、観る者をも必ず魅了するはずだ。

岡山大会のスケジュールは、専有走行が4月4日(金)10時~10時30分、12時~12時30分の2セッション。予選は4月5日(土)11時25分~11時55分。第1戦の決勝レースは同日15時45分から15周でスタート予定となっており、第2戦は翌6日(日)の10時30分から、こちらも15周で行なわれる。



#11 Naoya Yamano



#19 Hiroaki Nagai



#32 Taiyo Iida



Gentleman Class #7 Satoshi Hoshino

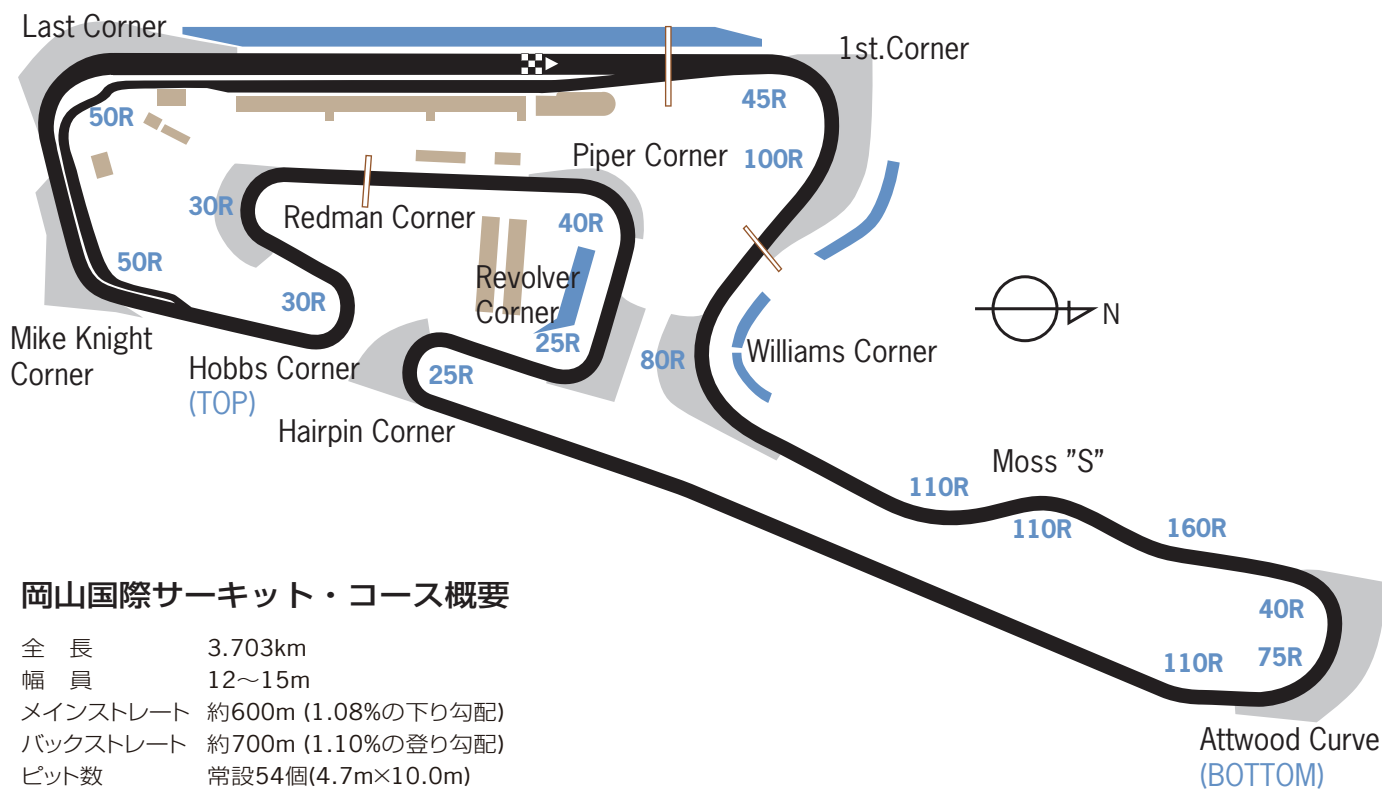


第1戦・第2戦 岡山大会エントリーリスト

参加台数:16台

Comp No.	Class	Driver Name	Machine	Entrant Name
3	G	江本 玄 Gen EMOTO	アキラレーシングウィズサムライ	Team SAMURAI
7	G	星野 敏 Satoshi HOSHINO	D'station HAI GT3	D'station HAI Racing
9	G	武井 真司 Shinji TAKEI	BINGO SPORTS	BINGO SPORTS
11		山野 直也 Naoya YAMANO	チーム ケータッチ ポルシェ	TEAM KTOUCH PORSCHE
12		小河 諒 Ryo OGAWA	チーム ケータッチ ポルシェ	TEAM KTOUCH PORSCHE
14		元嶋 佑弥 Yuya MOTOJIMA	GARMIN PORSCHE	GARMIN PORSCHE
18	G	大久保 仁 Hitoshi OKUBO	Force Racing	FIELD MOTORSPORT
19		永井 宏明 Hiroaki NAGAI	ナインレーシング	NINNE RACING
21	G	高田 匠 Takumi TAKATA	PCJ Takumi Racing	NINNE RACING
24	G	剛 覇矢人 GO Hayato	みきゃん MP-GT3	GAINER with Team Tetsuya
25	G	神取 彦一郎 Hikoichiro KAMITORI	25 レーシングX チームサムライ	Team SAMURAI
32		飯田 太陽 Taiyo IIDA	KRM ケーズフロンティア991	TEAM KRM
33	G	TETSUO OGINO Tetsuo OGINO	PCJ ケーズフロンティア991	TEAM KRM
51	G	Paul IP Paul IP	KCMG	KCMG
73	G	鈴木 篤 Atsushi SUZUKI	SR レーサリンクGT3	SR ASSET HAI RACING
78		近藤 翼 Tsubasa KONDO	スカイ レーシング	SKY Racing

*G=Gentleman



岡山国際サーキット・コース概要

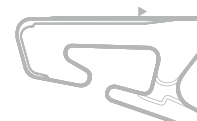
全 長	3.703km
幅 員	12～15m
メインストレート	約600m (1.08%の下り勾配)
バックストレート	約700m (1.10%の登り勾配)
ピット数	常設54個(4.7m×10.0m)
コース最高点	ホブbsコーナー(標高275m)
コース最低点	アトウッドカーブ(標高246m)
高低差	29m
コーナー数	20(右:8 左:12)
路 面	特殊アスファルト舗装

コースレコード

PCCJ 1'32.871 清水 康弘 911 GT3 Cup 2010.4.3 2010 SUPER GT第2戦

PORSCHE

CARRERA
CUP
JAPAN



Porsche Carrera Cup Japan 2014

第1戦 & 第2戦 公式予選レポート



ポルシェ カレラカップ ジャパン(PCCJ)の2014年シーズンが、いよいよ幕を開ける。スーパーGT開幕戦との併催となった今大会には、年間エントリーうち16台が出走。今シーズンの最も大きな話題であるType 991が導入され、エントラントのほとんどが継続参戦ということもあり、それぞれの期待の高さをうかがわせるとともに、例年以上にハイレベルな戦いになりそうだ。緒戦の舞台である岡山国際サーキット(岡山県)は、全長3.703kmの小さいコーナーが多いコンパクトなレイアウトで知られ、オーバーテイクポイントは多いとはいえないテクニカルコースである。

■天候:曇 ■路面:ドライ ■気温:8℃ ■路面温度:15℃(スタート時)

今回の予選は計測30分間の1セッション。ただし、予選システムは変更され、ダブルヘッダーの第1レースは予選のベストタイム順でスターティンググリッドが形成されるのは従来どおりだが、第2レースは予選のセカンドタイム順で形成される。したがって、予選では1周だけでなく、さらにもう1周の速さが求められるようになった。連続してアタックするか、いったん間を置いて再度アタックするか、コース状況やタイヤのグリップ力を含めた見極め方が、大きく鍵を握るのは言うまでもない。

4月4日(金)に行われた専有走行1回目はあいにくのウェットコンディションながら、#78 近藤翼がトップ。2回目は時折雨がコースを濡らす難しい状態の中、#11 山野直也が1分34秒213をマークして、すでに従来の記録タイムを更新する。これに続いたのは#78 近藤、#19 永井宏明、#12 小河諒。そしてジェントルマンクラスのトップで、#21 高田匠がこれに続いた。

そして迎えた予選日の4月5日(土)。天候の悪化が懸念されたものの、上空には灰色の雲こそ浮かぶがドライコンディションを保ったまま予選はスタートする。ピットレーンの先頭に並んだのは#11 山野で、#78 近藤、#12 小河が続く。温度が低いことも

あって、それぞれ入念にタイヤのウォームアップを行い、本格的なアタックが行われたのは4周目から。最初のアタックで1分32秒台をマークしたのは#11 山野で、32秒844、32秒392をマークした後、ピットに戻ってタイヤを交換する。この時点で2番手は#12 小河で、32秒550で続いていた。

#11 山野はさらなる短縮を目指し、再びコースイン。引き続き入念にタイヤのウォームアップを行い、4周目から再度アタックを行っていく。32秒548を記録した後、自己ベストを更新する32秒363をマーク。その直後にルーキーの#14 元嶋佑弥が32秒381、#12 小河が32秒539を記録するが、山野には一歩及ばず。また、チェッカーまであと5分というところで、最終コーナーでコースアウトした車両があって赤旗が。再開はされず予選は終了となったが、惜しまれたのは#78 近藤だ。セクター1を最速タイム、セクター2を自己ベストで駆け抜けていたのだが、せっきくの激走はふいになってしまった。

従来の記録を約2秒も短縮し、新たな記録ホルダーとなった#11 山野はベストタイムのみならず、セカンドタイムでもトップだったこともあり、2戦ともポールポジションから決勝レー

PORSCHE

**CARRERA
CUP
JAPAN**



Porsche Carrera Cup Japan 2014

第1戦 & 第2戦 公式予選レポート

スに挑むことに。「昨日までコンディションが悪かったので、ニュータイヤを履いて、コンディションに恵まれれば、32秒台に入るかな、とは思っていたので、ますますターゲットどおりのタイムです。開幕戦ということもあり、何回か周回遅れに引っかかっているのですが、タイムを出せた周は2回ともしっかりクリアが取れました」と、#11 山野の表情には達成感が浮かんでいた。

第1戦を2番手から挑む#14 元嶋は、セカンドタイムが32秒618だったこともあり、第2戦には3番手からのスタートに。「ニュータイヤやクルマの感覚がだいづかめたので、初めての決勝レースには欲を出さず、しっかり結果を残して来ようと思っています」と。そして、第1戦は3番手から、セカンドタイムが32秒550で第2戦は2番手からと、元嶋とポジションを入れ替えた小河は、「最終コーナーでの失敗があるんですが、ここ岡山では予選よりも決勝で、去年は順位を上げてきているんです。改めて決勝に強いことをアピールしたいですね」と巻き返しを強く誓っていた。

そして、ジェントルマンクラスでトップは33秒989を記録した#25 神取彦一郎。総合でも6番手で、セカンドタイムでもクラストップとあって、「ビックリしました。公式テスト以来、初めてニュータイヤを履いたんですが、すごくグリップしたので。目標としていた34秒を切れたし、満足しています」と笑顔で語っていた。



Overall 3rd. #12 Ryo Ogawa



Gentleman Class 1st. #25 Hikoichiro Kamitori



Overall 1st. #11 Naoya Yamano



Gentleman Class 2nd. #7 Satoshi Hoshino



Overall 2nd. #14 Yuya Motojima



Gentleman Class 3rd. #21 Takumi Takata



PCCJの予選終了後にも天候は崩れることなく、本日15時45分から15周でスタートするPCCJの第1戦は、ドライコンディションの下でのレースとなりそうだ。2014年シーズンの開幕戦、岡山

での緒戦を誰が制すのか？ Type 991での初レースということもあって、予想を遥かに超える、激しい展開となることは間違いない。

第1戦・第2戦 予選結果(ベストタイム+2ndタイム) 天候:曇 路面:ドライ 出走台数:15台

Pos.	No.	Class Pos.	Driver	Car Name	Best Time	2nd Time
1	11		山野 直也	チーム ケータッチ ポルシェ	1'32.363 R	1'32.392
2	14		元嶋 佑弥	GARMIN PORSCHE	1'32.381	1'32.618
3	12		小河 諒	チーム ケータッチ ポルシェ	1'32.539	1'32.550
4	19		永井 宏明	ナインレーシング	1'32.792	1'33.282
5	78		近藤 翼	スカイレーシング	1'33.077	1'33.396
6	25	G-1	神取 彦一郎	25 レーシング X チームサムライ	1'33.989 RR	1'34.190
7	32		飯田 太陽	KRM ケーズフロンティア 991	1'34.012	1'34.499
8	7	G-2	星野 敏	D'station HAI GT3	1'34.045	1'34.342
9	21	G-3	高田 匠	PCJ Takumi Racing	1'34.105	1'34.714
10	9	G-4	武井 真司	BINGO SPORTS	1'34.632	1'35.005
11	24	G-5	剛 霸矢人	みきゃん MP-GT3	1'34.651	1'36.000
12	3	G-6	江本 玄	アキラレーシングウィズサムライ	1'35.408	1'35.561
13	18	G-7	大久保 仁	Force Racing	1'35.725	1'36.105
14	51	G-8	Paul IP	KCMG	1'38.276	1'38.928
15	73	G-9	鈴木 篤	SR レーサリンク GT3	1'43.132	1'44.325
16	33	G	TETSUO OGINO	PCJ ケーズフロンティア 991	出走せず	

R 印は PCCJ のコースレコード。RR 印は PCCJ ジェントルマンクラスのコースレコード。

*G=Gentleman

第1戦 スターティンググリッド

P.P.	11 山野 直也 チーム ケータッチ ポルシェ	1'32.363 R	2位	14 元嶋 佑弥 GARMIN PORSCHE	1'32.381
3位	12 小河 諒 チーム ケータッチ ポルシェ	1'32.539	4位	19 永井 宏明 ナインレーシング	1'32.792
5位	78 近藤 翼 スカイレーシング	1'33.077	6位	25 神取 彦一郎 25 レーシング X チームサムライ	G-1 1'33.989 RR
7位	32 飯田 太陽 KRM ケーズフロンティア 991	1'34.012	8位	7 星野 敏 D'station HAI GT3	G-2 1'34.045
9位	21 高田 匠 PCJ Takumi Racing	G-3 1'34.105	10位	9 武井 真司 BINGO SPORTS	G-4 1'34.632
11位	24 剛 霸矢人 みきゃん MP-GT3	G-5 1'34.651	12位	3 江本 玄 アキラレーシングウィズサムライ	G-6 1'35.408
13位	18 大久保 仁 Force Racing	G-7 1'35.725	14位	51 Paul IP KCMG	G-8 1'38.276
15位	73 鈴木 篤 SR レーサリンク GT3	G-9 1'43.132			

*G=Gentleman

PORSCHE

CARRERA
CUP
JAPAN



Porsche Carrera Cup Japan 2014

第1戦 決勝レポート



4月5日(土)、岡山国際サーキット(岡山県)において、ポルシェ カレラカップ ジャパン(PCCJ)2014の決勝レース第1戦が、午前中の予選に続いて開催された。4時間あまりのインターバルには一時強く陽も差したが、スタート進行が近づくにつれて再び灰色の雲がサーキットの上空に。予選とほぼ同じようなコンディションの中、色とりどりのマシンがスターティンググリッドに向かっていった。

■天候:曇のち雨 ■路面:ドライ～セミウェット ■気温:10℃ ■路面温度:14℃(スタート時)

グリッドの先頭、ポールポジションに着くのは、レコードタイムも更新した#11 山野直也。その脇にルーキーの#14 元嶋佑弥が並び、2列目には#12 小河諒と#19 永井宏明、そして3列目には#78 近藤翼、ジェントルマンクラストップの#25 神取彦一郎が並んだ。

スタートを誰より決めたのは#14 元嶋で、出遅れてしまったのが#11 山野と#12 小河。1コーナーには#14 元嶋がトップで飛び込み、これに続いたのは#11 山野、#78 近藤、#12 小河。そして、その直後に中団で接触があり、ダメージを負った車両から液体が漏れ、2コーナーからアトウッドコーナーまでを汚してしまう。

オープニングラップを終えて、#14 元嶋と#11 山野の差はわずかコンマ5秒。#78 近藤と#12 小河も離れず続き、そのまま激しいバトルが続くと思われたが、その予想はあっという間に覆されてしまう。2コーナーで#14 元嶋がクラッシュを喫し、さらに#78 近藤と#12 小河もコースアウト。後続にもコースアウトが相次いだことから、赤旗が出されてレースは中断される。

レースはセーフティカー(SC)スタートで、残り8周のトータル10周で仕切り直されることになった。SCの先導は2周行われ、実質6周での戦いに。再スタートを完璧に決めた#11 山野は、

1周戻ってくると2番手に浮上していた#32 飯田太陽にすら1秒5の差をつけていた。これに続く3番手はジェントルマンクラストップの#7 星野敏ながら、6周目に#19 永井、#25 神取、#12 小河に相次いでかわされた後、タイヤを交換するためピットに向かう。

7周目のアトウッドコーナーでは、#12 小河が#19 永井をかわして3番手に浮上。その間にも、トップの#11 山野は淡々と逃げていく。その頃から雨が降り出すも、#12 小河はファステストラップを連発し、一気に#32 飯田との差も詰めていった。また、9周目にはピットスタートを強いられていた#78 近藤も6番手に浮上する。最後のハイライトは、ゴール直前のストレート。#12 小河が#32 飯田に並びかけるも、あと一歩のところまで前に出られず。「チェッカーが見えてホッとした」と語る飯田ながら、2位は自己最上位。「大事に、冷静に走ったのがよかったんでしょね」と安堵の表情で語った。

その#32 飯田より約8秒早くチェッカーを受けたのが、もちろん最後まで危なげない走りを見せ続けた山野。「最初のスタートはうまくいきませんでした、次のスタートは完璧に決まりました。2周目の2コーナーは黄旗も出ていて、すごく滑りやすくなっていたので、僕はすごく慎重に入っていたので何とかトッ



Porsche Carrera Cup Japan 2014 第1戦 決勝レポート

プに立つこ とができました。PCCJはリタイヤが禁物で、全戦有効で2レースのときも多いから、最初のレースでクルマを壊したら、次のレースに出られなくて取り返しのつかないことになりますからね。だから、まず1勝! いい開幕レースになりました」と笑顔を見せていた。

3位は#12 小河が獲得し、4位は#19 永井。そして、続く5位はジェントルマンクラスで初優勝を飾った、予選9番手の#21 高田匠だった。再スタート時には8番手で、6周目にはふたつポジションをアップ。7周目には#25 神取をかわしてクラストップに浮上していた。「最後は執念でした。神取さんは熟練だから絶対寄せたりして来ないだろうと、並んでからは絶対譲らないぞ

と思って走りました。先生の佐々木孝太さんから『まず1勝を』と言われていたので、さっそく勝てて最高に嬉しいです」と#21 高田。クラス2位は#18 大久保仁が獲得した。

PCCJ第2戦は4月6日(日)に、10時30分から15周によって競われる予定となっている。今シーズンからの予選システムの変更により、予選セ カンドタイム順にグリッドが形成され、ポールポジションからのスタートは引き続き#11 山野とあって、連勝の期待もかかる。チームメイトの#12 小河ともにフロントローを独占していることもあり、ワンツーフィニッシュとて決して夢ではないはずだ。第2戦では、再び熱いバトルが繰り広げられることが 期待される。



Overall 1st. #11 Naoya Yamano



Gentleman Class 1st. #21 Takumi Takata



Overall 2nd. #32 Taiyo Iide



Gentleman Class 2nd. #18 Hitoshi Okubo



Overall 3rd. #12 Ryo Ogawa



Gentleman Class 3rd. #3 Gen Emoto



Porsche Carrera Cup Japan 2014 第1戦 決勝結果 第2戦 スターティンググリッド

第1戦 決勝結果 天候:曇のち雨 コース:ドライ〜セミウエット スタート時間 15:49.24 出走台数:15台 完走台数:10台

Pos.	No.	Class-Pos.	Driver	Car Name	Laps	Time/Gap	Best Time
1	11		山野 直也	チーム ケータッチ ポルシェ	10	41'16.664	1'34.771
2	32		飯田 太陽	KRM ケーズフロンティア 991	10	7.993	1'34.419
3	12		小河 諒	チーム ケータッチ ポルシェ	10	8.141	1'34.686
4	19		永井 宏明	ナインレーシング	10	12.517	1'35.542
5	21	G-1	高田 匠	PCJ Takumi Racing	10	14.122	1'35.739
6	78		近藤 翼	スカイレーシング	10	24.553	1'35.475
7	18	G-2	大久保 仁	Force Racing	10	34.656	1'38.957
8	3	G-3	江本 玄	アキラレーシングウィズサムライ	10	1'04.466	1'39.243
9	25	G-4	神取 彦一郎	25レーシング×チームサムライ	9	1 Lap	1'39.440
10	73	G-5	鈴木 篤	SR レーサリンク GT3	9	1 Lap	2'01.435
————— 以上完走 —————							
	7	G	星野 敏	D'station HAI GT3	9-1=8	2 Laps	1'39.725
	14		元嶋 佑弥	GARMIN PORSCHE	1	9 Laps	1'41.183
	24	G	剛 覇矢人	みきゃん MP-GT3	1	9 Laps	1'46.652
	51	G	Paul IP	KCMG	1	9 Laps	1'53.706
	9	G	武井 真司	BINGO SPORTS	0	10 Laps	

*決勝レースは開始2分29秒時点で赤旗中断(15:51~16:15)、5周減算し10周回とした。

G=Gentleman

*No.3はイエローラインカット違反により、決勝結果に30秒を加算。

*No.7は赤旗時の追い越し違反により1周減算。

*ベストラップ:#12 小河 諒 1'34.686 9/10 140.790km/h



第2戦 スターティンググリッド(公式予選2nd.タイム順)

P.P.	11	山野 直也	1'32.392		
		チーム ケータッチ ポルシェ		2位	12
3位	14	元嶋 佑弥	1'32.618		
		GARMIN PORSCHE		4位	19
5位	78	近藤 翼	1'33.396		
		スカイレーシング		6位	25
7位	7	星野 敏	G-2 1'34.342		
		D'station HAI GT3		8位	32
9位	21	高田 匠	G-3 1'34.714		
		PCJ Takumi Racing		10位	9
11位	3	江本 玄	G-5 1'35.561		
		アキラレーシングウィズサムライ		12位	24
13位	18	大久保 仁	G-7 1'36.105		
		Force Racing		14位	51
15位	73	鈴木 篤	G-9 1'44.325		
		SR レーサリンク GT3			

*G=Gentleman

PORSCHE

CARRERA
CUP
JAPAN



Porsche Carrera Cup Japan 2014
第2戦 決勝レポート



ポルシェ カレラカップ ジャパン(PCCJ)2014の第2戦が、4月6日(日)に岡山国際サーキット(岡山県)で開催された。今回はダブルヘッダー大会で4月5日(土)に行われた第1戦では2年ぶり、初のフル参戦となる#11 山野直也がポール・トゥ・ウィンを達成。不安定な天候の中、2位の#32 飯田太陽に約8秒の差をつけた。その勢いが第2戦でも維持されるのか、大いに注目された。

■天候:曇のち雨 ■路面:ドライ〜ウエット ■気温:7℃ ■路面温度:11℃(スタート時)

10時15分からPCCJのスタート進行が始まり、全車がスリックタイヤを装着してグリッドへ。早朝に雨が降り、コースも黒く染められたのだが、すっかり天候は回復して陽まで差すようになり、ライン上はほぼドライとなっていた。予選のセカンドタイムで決められたグリッドの並びは、ポールポジションに#11 山野がつき、その脇には#12 小河諒が。そして、2列目には#14 元嶋佑弥と#19 永井宏明が並んでいた。なお、本来6番手から、ジェントルマンクラスのトップとして挑むはずだった#25 神取彦一郎は、体調不良のため出走を取りやめている。

15週の決勝レースは、セーフティカー(SC)スタートから開始された。SCの先導は3周に渡って行われ、十分にタイヤに熱が加わった状態から戦いの火ぶたが切られることに。ここで絶妙の

ダッシュを決めたのが#11 山野。完全に#12 小河はタイミングを逸し、コントロールラインを通過した時には1秒8の差をつけられてしまう。この差が次の周には2秒2にまで広がる。しかし、早めの勝負を狙った#12 小河が一気にペースを上げてきて、徐々に差を詰めてくるが、これは#11 山野にとっては想定内。「僕は15周を見据えたペースで走っていたけど、諒は僕を抜かなきゃいけないから、あそこでペースを上げてくるのは分かっていた」と語るとおり、#12 小河が1分32秒台に乗せてきたのに対し、33秒台を刻み続ける。やがて、#12 小河は「最後はやっぱりタイヤがきつくなってきました」とペースが鈍り、再び#11 山野に差を広げられてしまう。

最後まで激しく続いたのは、#19 永井と#78 近藤翼による3番

PORSCHE

**CARRERA
CUP
JAPAN**



Porsche Carrera Cup Japan 2014

第2戦 決勝レポート

手争いだ。4周目に「足まわりに違和感を感じた」という#14 元嶋がペースを落とした後、ピットに戻ってリタイア。これでひとつ順位を上げた後、#78 近藤は#19 永井にびたりとついて離れず。バックストレートで何度も横に出て、けん制をかける#78 近藤ながら、リヤウイングを立てているため、前に出ることは許されない。#78 近藤は雨が降ることを見越したセッティングだったためだ。その雨が13周目になって唐突に、しかも強烈な勢いで降り始める。横殴りで、時に雹まじりの天候変化は#78 近藤にとって千載一遇のチャンスのはずだった。ところが、その直後にセーフティカーが。安全のことを思えば、やむを得ないが、これで逆転の機会は奪われる。

2周に渡るSCの先導で、ほとんどの車両が一列に並んだままチェッカーを受けることに。その結果、#11 山野が連勝を飾り、「最後の雨にビックリした以外は、完璧なレースでした。スタートから後ろを離れたし、最後までタイヤを保たせて走れましたから。この2連勝はすごく大きいと思います。第1戦と第2戦で2位のドライバーが別ですし、差も広げることができたので。この勢いのままシリーズを駆け抜けたいですね」と#11 山野は語った。

2位は#12 小河が獲得。「スタートのしくじりが痛かったです」と苦笑い。3位は激しい攻防の末に#19 永井が獲得し、「最後まで



Overall 3rd. #19 Hiroaki Nagai



Gentleman Class 1st. #7 Satoshi Hoshino



Overall 1st. #11 Naoya Yamano



Gentleman Class 2nd. #3 Gen Emoto



Overall 2nd. #12 Ryo Ogawa



Gentleman Class 3rd. #21 Takumi Takata



Porsche Carrera Cup Japan 2014 第2戦 決勝レポート/決勝結果

必至に抑え抜きました」と、久々の表彰台獲得に笑顔を見せていた。

総合5位は#7 星野敏が獲得。そして、ジェントルマンクラスの優勝を飾った。スタートから後続を寄せつけず、そのままの勢いをキープし続けて、まさにひとり舞台に。「前も後ろもない状態だったので、リラックスして走れました。今日は自分の走りができたとします。今シーズン、まず1勝を挙げられて嬉しい」と#7 星野。また、#21 高田匠が10周目まで単独で2番手を走行していたが、ヘアピンで止まり切れずコースアウト。すぐに復帰するも、3ポジション落としてしまう。突然の降雨の後、再び2番手に返り咲いてフィニッシュするが、SC導入直後だった

め、30秒加算のペナルティにより、#3 江本玄と順位を入れ替え、3位ということに。それでも開幕ラウンドをポイントリーダーとして終えることに成功した。

次戦、第3戦は5月3日(土・祝)～4日(日・祝)に富士スピードウェイ(静岡県)で開催され、岡山大会同様スーパーGTとの併催となる。ゴールデンウィーク真っただ中ということもあり、関東近県のみならず全国からレースファンが集まり、国内レースとしては一、二を誇る大観衆でスタンドが埋め尽くされる一戦だ。シーズン前のテストを行ったコースということで、さらにバトルはヒートアップしそうだ。国内随一の高速コースでのレースは、今回とは一味違った展開となることも予想される。

第2戦 決勝結果 天候:曇のち雨 コース:ドライ～ウエット スタート時間 10:30.01 出走台数:14台 完走台数:13台

Pos.	No.	Class-Pos.	Driver	Car Name	Laps	Time/Gap	Best Time
1	11		山野 直也	チーム ケータッチ ポルシェ	15	27'44.482	1'33.249
2	12		小河 諒	チーム ケータッチ ポルシェ	15	0.401	1'32.512
3	19		永井 宏明	ナインレーシング	15	2.574	1'33.215
4	78		近藤 翼	スカイ レーシング	15	3.553	1'33.058
5	7	G-1	星野 敏	D'station HAI GT3	15	5.329	1'34.036
6	32		飯田 太陽	KRM ケーズフロンティア 991	15	6.637	1'34.756
7	3	G-2	江本 玄	アキラレーシングウィズサムライ	15	36.552	1'35.395
8	21	G-3	高田 匠	PCJ Takumi Racing	15	37.764	1'34.918
9	24	G-4	剛 覇矢人	みきゃん MP-GT3	15	38.396	1'35.519
10	18	G-5	大久保 仁	Force Racing	15	49.355	1'36.538
11	51	G-6	Paul IP	KCMG	15	51.032	1'36.958
12	9	G-7	武井 真司	BINGO SPORTS	15	53.846	1'35.239
13	73	G-8	鈴木 篤	SR レーサリンク GT3	14	1 Lap	1'44.706
——— 以上完走 ———							
	14		元嶋 佑弥	GARMIN PORSCHE	3	12 Laps	2'13.681

*決勝レースは、天候不良の為SCスタートとした。開始23分36秒時点でセーフティカーを導入。(13周回～15周回)

*No.21はSC中の追い越し違反により、決勝結果に30秒を加算。G=Gentleman

*ベストラップ:#12 小河 諒 1'32.512 6/15 144.098km/h





2014年シリーズポイント(第2戦終了時)

Pos.	No.	Driver	Total	Rd.1 岡山 4月5日	Rd.2 岡山 4月6日	Rd.3 富士 5月4日	Rd.4 富士 6月7日	Rd.5 富士 6月8日	Rd.6 菅生 7月19日	Rd.7 菅生 7月20日	Rd.8 鈴鹿 8月31日	Rd.9 鈴鹿 10月3日
1	11	山野 直也	40	20	20							
2	12	小河 諒	34	16	18							
3	19	永井 宏明	30	14	16							
4	32	飯田 太陽	28	18	10							
5	78	近藤 翼	24	10	14							
6	21	高田 匠	20	12	8							
7	3	江本 玄	17	8	9							
8	18	大久保 仁	15	9	6							
9	7	星野 敏	12	0	12							
10	73	鈴木 篤	9	6	3							
11	25	神取 彦一郎	7	7	—							
12	24	剛 覇矢人	7	0	7							
13	51	Paul IP	5	0	5							
14	9	武井 真司	4	0	4							
	14	元嶋 佑弥	0	0	0							

2014年 Gentleman Class シリーズポイント(第2戦終了時)

Pos.	No.	Driver	Total	Rd.1 岡山 4月5日	Rd.2 岡山 4月6日	Rd.3 富士 5月4日	Rd.4 富士 6月7日	Rd.5 富士 6月8日	Rd.6 菅生 7月19日	Rd.7 菅生 7月20日	Rd.8 鈴鹿 8月31日	Rd.9 鈴鹿 10月3日
1	21	高田 匠	36	20	16							
2	3	江本 玄	34	16	18							
3	18	大久保 仁	30	18	12							
4	7	星野 敏	20	0	20							
5	73	鈴木 篤	20	12	8							
6	25	神取 彦一郎	14	14	—							
7	24	剛 覇矢人	14	0	14							
8	51	Paul IP	10	0	10							
9	9	武井 真司	9	0	9							

2014年 チームポイント(第2戦終了時)

Pos.	Team	Total	Rd.1 岡山 4月5日	Rd.2 岡山 4月6日	Rd.3 富士 4月6日	Rd.4 富士 5月4日	Rd.5 富士 6月7日	Rd.6 菅生 6月8日	Rd.7 菅生 7月19日	Rd.8 鈴鹿 7月20日	Rd.9 鈴鹿 8月31日
1	TEAM KTOUCH PORSCHE (#11、#12)	74	36	38							
2	NINNE RACING (#19、#21)	50	26	24							
3	TEAM KRM(#32、#33)	28	18	10							
4	TEAM SAMURAI (#3、#25)	24	15	9							
5	FIELD MOTOR SPORT (#18、#20)	15	9	6							

*ポイントシステム=1位:20 2位:18 3位:16 4位:14 5位:12 6位:10 7位:9 8位:8 9位:7 10位:6 11位:5 12位:4 13位:3 14位:2 15位:1



